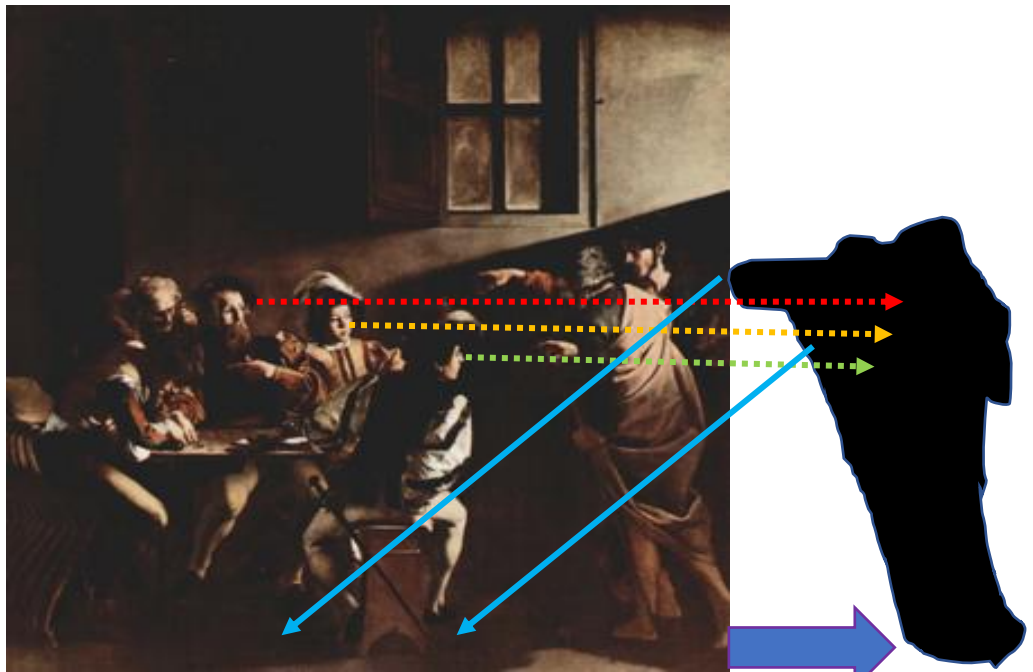


116 《聖マタイの召命》

ウィキペディア解説への反証

2024

真鍋友範



イエス・ペテロの実際の立ち位置はここ

1 ウィキペディア（2024）からの抜粋

しかし、マタイが徴税人であることを表現するのであれば、金を触っているのがマタイであると考えるのが自然であり、左端の若者は顔を金に近づけて右手でその金を数えている。他方、髭の男は人差し指を水平にして画面左を指差しており、カラヴァッジョ作品では人差し指は第三者を指す場合に用いる事、更に言えばイエスの人差し指は先が下がっており、その延長線には若者がいる事、イエスの手前にいるペテロと思われる男の人差し指も下がっている事、以上の事から左端の若者こそが聖マタイであると考えられる。

※「カラヴァッジョ」聖マタイの召命「誰がマタイか」より一部抜

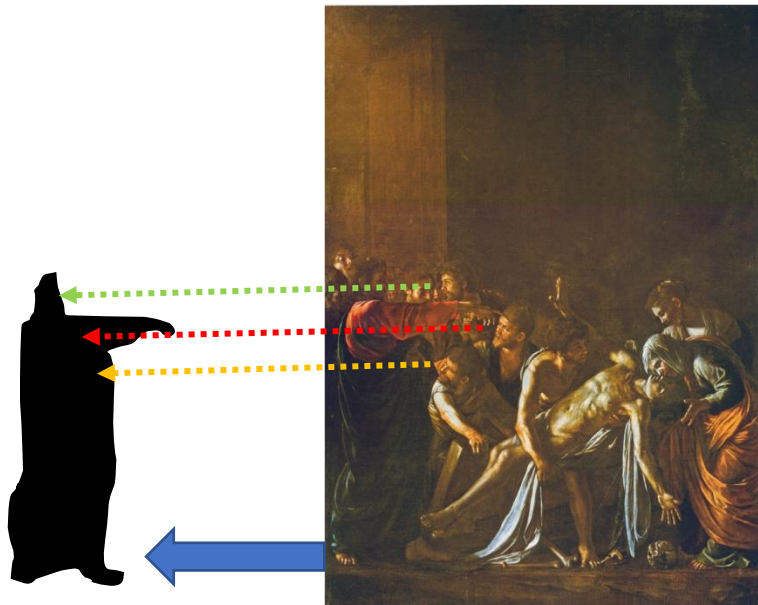
粋

2 上記ウィキペディア解説は間違いである理由

まず、【イエスやペテロは、描かれた場所に立っているのではない、】という、基本認識が、ウィキペディア執筆者に認識がない。

この根拠は、髭男や若者達の視線だ。
視線はイエスやペテロの背後に向けられている。
視線の先にイエス・ペテロは立っている

同じ例は、カラヴァッジョの描いた《ラザロの復活》にもある。



イエスはここに立っている

つまり、墓掘人夫達の視線の先にイエスが立っていることを、ウィキペディア執筆者は気づいていない。

このような、左右空間を縮めて描く画法を、小生は【空間圧縮画法】と呼ぶが、カラヴァッジョの絵画には他にもあり、ルネッサンス・バロック期の他の画家の絵画表現にもある、常識的な基本認識事項なのだ。

つまり、これを認識できないと、正しく内容を認識することは出来ない。
残念ながら、ドイツ学派の美術史家は誤った認識であることはもちろん、ロー

マ・カトリック教会関連のイタリア学派の歴史学者も認識されていない。

3 仮に、ここからイエスが、下方を指差したなら

イエスは、俯いた若い収税人ではなく、床を指差していることになる。
ウィキペディア解説（2024）は、全く論理が成立しないのだ。